

## Prevalence of microembolic signals in embolic stroke of undetermined source and other subtypes of ischemic stroke

Eiko Higuchi, Sono Toi, Yuka Shirai, Takao Hoshino, Kentaro Ishizuka, Satoru Shimizu, Yukiko Tsutsumi, Kazuo Kitagawa

Stroke 2019 [in press]

近年、原因不明の脳梗塞において多くの割合を占める塞栓源不明の脳塞栓症 (ESUS) の概念が提唱されている。しかし、その塞栓性は証明されておらず不明な点も多い。この研究の目的は、ESUS の微小栓子 (MES) の検出率と危険因子の関連を明らかにすることであった。

発症から 14 日以内に内頸動脈領域の急性虚血性脳卒中または一過性脳虚血発作を起こし、2017 年 4 月から 2019 年 3 月までに当院に入院した 108 人の患者を対象とした。ESUS および心原性脳塞栓症 (CE)、アテローム血栓性脳梗塞 (LAA)、脳小血管病 (CSVD)、一過性虚血発作 (TIA) における MES の検出率と数を調査した。

MES は、108 人中 33 人 (31%) の患者で検出された。ESUS は最も高い割合 (12/24 [50%]) を示し、続いて LAA (8/20 [40%])、CE (6/18 [33%])、TIA (4/24 [17%])、および CSVD (3/21 [14%]) であった。単変量解析により、収縮期血圧、Body Mass Index、ヘモグロビン A1c、および ESUS が MES と有意に関連していることが示された。多変量分析では、ESUS は MES と有意に関連したままであった (下記 Figure)。本研究は、ESUS と MES の有意な関連を実証し、ESUS の疾患概念を支持する結果となった。

